

阿南市の先覚者たち

郷土の偉人を紹介するために、平成26年阿南市文化協会から「阿南市の先覚者たち第1・2集」が刊行されました。
阿南市の発展に尽力された人たちの偉業を顕彰し、後世に語り継ぐために、27人の先覚者たちを奇数月に掲載して紹介します。

シーボルト門下生・蘭学者

美馬 順三

1795年、羽ノ浦町岩脇に生まれる。幼少より学問を好み、成人して京都、長崎に遊学。長崎では出島のオランダ商館に出入りすることを許され、1823年に来日したシーボルトの門下生となる。1824年、順三は長崎郊外にあった鳴滝塾の講師となり、その中で卓越した指導力と豊かな人格が認められ、初代塾頭に抜てきされた。

シーボルトが書き残した「江戸参府日記」には「蘭（オランダ）館の業績をプロムホップが私に報告。その中で阿波の美馬順三などの名医が、あの鳴滝塾でヨーロッパの学術を学び、優れた指導者になった。順



三は鳴滝塾の塾頭となり、私のために学問調査したこと少なからず。」と順三を賞賛している。さらにシーボルト著の「日本植物志」の中にも「所属の植物は、順三が私のために数多くの新種植物とともに肥後の金峰山より採り来るものなり。」と記載されている。

また、順三が賀川玄悦の「産論」、石坂宗哲の「鍼灸如要一言」を蘭訳し、シーボルトに提出。シーボルトはこれらを日本人の医学的業績として、西洋医学会に順三の名で紹介した。

これらのことから、シーボルトと順三の師弟関係が信頼感に充ちてい

たことがうかがいしれる。
しかしながら、塾頭となつて1年後の1825年、順三はコレラに感染。シーボルトを師と仰ぎ、門下生として愛された順三は、日本医学発展に大きな功績を残しつつ、惜しまれながら31歳の若さで没した。
美馬順三の墓所は、羽ノ浦町岩脇の紫雲庵敷地内（羽ノ浦中学校から羽ノ浦丘陵を南に越えた場所）にあり、阿南市の文化財に指定されている。

日本医師会最高優功賞受賞

井上 節齋

1909年、現在の見能林町に生まれる。富岡中学校卒業を経て、東北帝国大学医学部医学科を卒業。
1935年、秋田市土崎港町立土崎病院内科医長。

1940年、陸軍に応召。
1943年、予備役陸軍軍医大尉となる。

戦場における軍医・節齋を知る岸氏は節齋のことを次のように述べている。

井上は味方、敵関わりなく、人の死に遭遇すると手を合わせ合掌した。「戦士といえど、自分から戦争を好んで出征していない。敵味方で

あろうと祈つてやりたい。」と答えたとのことである。
1946年、除隊。同年、高知県東洋町で医院を開業。1951年、故郷の人々に求められ羽ノ浦町に井上診療所を開業。その後多彩な要職を歴任。児童や生徒の体力向上、学校保健の増進、福祉行政の指導助言、公衆衛生および保健所運営に尽力。1955年に阿南市医師会理事となり、1961年には全会員の要望に応え会長に就任する。

戦後日本の医学は急速に進歩し、医学の近代化が要求されるようになり、節齋を中心に医師会病院の建設が計画され、その設立にも奔走した。永年にわたる節齋の偉大なる業績は、医師会のみならず、広く郷土の歴史の中に輝いている。これらの功績に対して、1981年に日本医師会最高優功賞が授けられた。1989年死去。享年79歳。

参考資料
「阿南市の先覚者たち 第二集」
2014・阿南市文化協会

☆次回（11月号）が最終回となります。
最終回は「島津華山」を紹介します。

問い合わせ
文化振興課 ☎22-1798